

1 参加について

全日程参加を基本とします。やむを得ず欠席される予定の開講日がある場合は、その旨をご連絡下さい。
特に、合宿(7/7～7/8)、中間報告(8/25)、最終報告(10/6)の欠席は可能な限り避けてください。
「みらいゼミ」は2013年から龍谷大学の公共政策系研究者と行政職員が協働で企画・運営する自治体職員向け研修です。意欲のある皆様のご参加をお待ちしています。

2 定員

定員:20名(先着順)
※受講生が10名に満たない場合、開講を取りやめることがあります。

3 受講料

参加費:22,500円(税込)※合宿代、交通費は別途必要です。

4 申込方法

下記のURLから申込みフォームに必要事項を記入の上、送信してください。
<https://event.rec.seta.ryukoku.ac.jp/miraizemi201805/>
※お申し込み後、志望動機や職歴、まちの課題等を別紙でお伺いいたします。

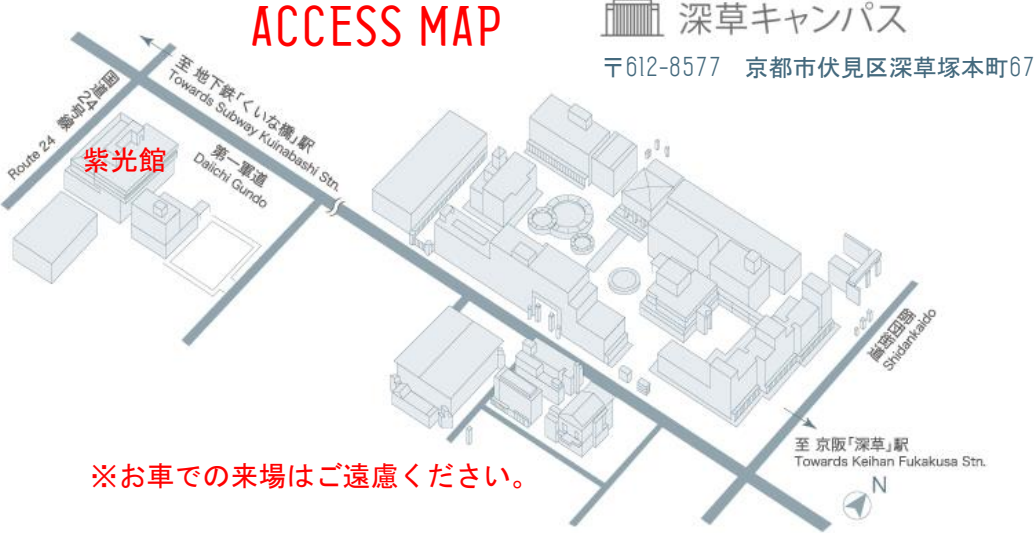


5 申込期限

2018年6月4日(月)

6 開催場所

龍谷大学深草キャンパス紫光館



7 お問い合わせ先

龍谷大学エクステンションセンター(REC事務部)
TEL. 075-645-2098/FAX. 075-645-9222 Email rec-k@ad.ryukoku.ac.jp



2018年6月16日(SAT)～10月6日(SAT)

全7回講義 参加費22,500円(合宿代別途)

他市のコピーや国策のあてはめではない、いま求められる政策力

「聴く」を重ねて政策課題の実像に近づき、政策を組み立てる政策力をつける。
みらいゼミは、多様な主体と連携して地域課題の解決に取り組む力を特に「聴く力」に着目して伸ばすプログラムです。
2013年にスタートし、今年で5期目を迎えます。
みらいゼミでは、プログラムを通じて自らの政策課題を探索し、その課題をめぐる地域の多様な主体を発見します。そして主体の語りによってさらに広く課題を共有し、政策を考える「まちの戦略会議」を構想・企画します。そのキーワードは「聴く」。形だけの「協働」や既存のつながりに閉じた「連携」を超える新しい政策形成の思考と方法を学びます。

◆自治体首長からのメッセージ

みらいゼミに参加し、自らが「聴く力」を身につけ、地域課題の解決に取り組む職員の誕生に大きな期待をしております。

精華町長 木村 要さん



プログラム（全7講）

本ゼミは全7講、全日程参加が原則として開講します。

第1講	6/16(sat) 13:00～17:00	オリエンテーション、講義：課題を現場から「聴く」ということ
第2講	7/7(sat)～8(sun) 合宿	実践演習 「聴く」を政策に反映させるシステム 場所：南山城村
第4講	7/21(sat) 10:00～16:00	「聴く」ことから課題の構造を明らかにする
第5講	8/25(sat) 10:00～16:00	固有課題調査(中間報告)
第6講	9/8(sat) 10:00～16:00	固有課題調査(最終報告に向けたアドバイス)
第7講	10/6(sat) 10:00～16:00	グランドフィナーレ 最終報告会

講師・ゼミ長・チューター紹介

本学の政策学研究者と経験豊かな現職の自治体職員が講師、ゼミ長、チューターとしてきめ細かなアドバイスを{oくります。

◆ゼミ長

徳永 眞一（とくなが しんいち）

 1983年大津市役所に入庁。その後、都市計画課、企画調整課、滋賀県への二度の出向等、福祉子ども部子ども政策監を経て、2017年4月より地方独立行政法人市立大津市民病院へ出向となり、現在は法人事務局次長。
2013年3月に京都大学公共政策大学院修了（公共政策修士）。地域には多くの課題があります。みらいゼミに参加して課題の本質を見極め、その解決に挑戦しましょう。熱い想いを持ったスタッフがあなたの参加をお待ちしています。

◆チューター

岩崎 裕之（いわさき ひろゆき）



1961年京都市生まれ。精華町教育委員会教育部長。2016年まで13年間人材育成担当。地域の課題と知っていることが、実はそうではなく、自分が思い込んでいるだけで、地域の課題はもっと別のところにある。でも、それをどうやって見分ければよいのか。それにはまず、人の話をよく聴くこと。「聴く力」を身に着けることで、課題の本質が見えてきます。本当の地域の課題を見つけてみませんか。

◆講師

深尾 昌峰（ふかお まさたか）

 1974年生まれ。1998年にきょうとNPOセンターを設立し、事務局長として市民社会の基盤整備に取り組む。2010年に龍谷大学法学部准教授に着任、2018年から政策学部教授。2017年度より龍谷エクステンションセンター（REC）センター長。各地のまちづくりに関わる中で、対話や地域の資金循環など市民社会のキャパシティ・ビルディングに興味と情熱を注いでいる。現在、東近江市参与、総務省ふるさとづくり懇談会委員など。

土山 希美枝（つちやま きみえ）

 1971年北海道生まれ。2001年に龍谷大学法学部助教授に着任、2011年から政策学部教授。2003年から龍谷大学地域公共人材・政策開発リサーチセンター（LORC）で地域公共人材のための研修・教育プログラムの開発に携わる。課題の現場から多面的に「聴く」ことで、課題の固有の構造を把握し、解決に繋がる主体を見つけ、その視野をもち、政策を構想する力の必要性を感じている。

岩崎 裕之（いわさき ひろゆき）



1961年京都市生まれ。精華町教育委員会教育部長。2016年まで13年間人材育成担当。地域の課題と知っていることが、実はそうではなく、自分が思い込んでいるだけで、地域の課題はもっと別のところにある。でも、それをどうやって見分ければよいのか。それにはまず、人の話をよく聴くこと。「聴く力」を身に着けることで、課題の本質が見えてきます。本当の地域の課題を見つけてみませんか。

築島 照和（つきしま てるかず）



1973年大阪市生まれ。甲賀市総務課法務係長。地域の課題はクイズのように、たいていの答えがひとつでハウツーを知っていれば解決できるというものではありません。課題を自分で設定し解決していくものであり、課題の設定によって答えが異なります。正解というよりも複数存在する「解」をこのゼミを通じて、解決していく手法と一緒に学んでいきましょう。

林 久善（はやし ひさよし）



1963年和歌山県田辺市生まれ。大阪市立大学社会連携課長、今春までは大阪市民政局区政支援室地域振興担当課長（政策学修士）。あなたの担当している施策・事業は、市民のニーズが十分に反映されていますか？今一度、ニーズを踏まえた施策・事業の構築のプロセスについて、それぞれの自治体の境界線を越えたネットワークの中で体験し具現化しましょう。きっと、あなたの今後の行動が変わります。

吉川 博之（よしかわ ひろゆき）



1969年滋賀県大津市生まれ。大津市未来まちづくり部建築指導課副参事（政策学修士）。地域課題の根っこには、普段は気にもとめていない、多様な主体の「小さな声」が点在しています。それらの声に耳を傾け、それらをつなげることによる、新しい政策形成の過程を体験してみませんか？課題意識は持っているけれど受け身なあなた。あなたです！タイミングは、きっと今ですよ。

「聴く」という本質へのアプローチ

困っている人はどこにいるのか？

地域の課題に取り組む自治体の役割はますます大きくなっています。課題に効果ある政策（=施策、事業のパッケージ）をすすめていくことが強く求められますが、それは簡単ではありません。政策課題は同じように見えても地域それぞれに異なる現場を持ち、当事者、関係者、課題を取り巻く事情はその課題に固有のものです。その現場から出発し、解決をめざす施策・事業を形成し実践するのが、政策の本来のあり方でしょう。しかし、実際にそのようになっているでしょうか？事業を検証なしに受け継ぎ続けたり、先駆事例のコピーや国・県のひな形をあてはめたり、「これでいいはず」という内容を行政とつながりの深い各種団体の承認という「市民参加」で進めていないでしょうか。

「聴く」訓練と実践がプログラムの要

全7回のプログラムでは、インタビューやヒアリングの方法を学び、実践しながら、自身の政策課題を複眼的な視野でとらえ、その構造を分析していくことに力をおいています。
多様な主体から「聴く」ことで課題を理解したら、そこで得た発見を共有することをめざしましょう。課題を取り巻く登壇者の語りを「聴く」ことで課題の共有を進める円卓会議という熟議の手法を学び、企画します。
ゼミ終了後、実現しうる企画については実施支援も行います。

鍵は「聴く」力

その問題で「困っている人」は誰か。その課題はどんな事情や状況を持っているのか。ともにとりくむ「ほっとけない人」はいないか。現場で、「聴く」を重ねることで、課題の構造を立体的に捉え、政策を構想する。上からのあてはめではなく、現場からの組み上げによる政策形成に不可欠なのが、「聴く」力と考えます。「コミュニケーション力」はアピールする、発信する力と捉えがちでした。しかし、政策形成のためのコミュニケーションや熟議において、自治体職員に求められるのは、「聴く」こと、「聴くことで語り合う」ことではないでしょうか。

受講者の声

このプログラムは“困っている人は誰か”、“本当の課題は何か”“なぜそれが課題なのか”じっくり考え、対話する時間を与えてくれます。4ヶ月間は長いようであつという間に過ぎ、めまぐるしく夏が終わった気がします。

掘り下げるテーマは人それぞれで、私は自分の業務に沿ったテーマを持ち、日々の仕事をこれからどう進めていくべきかを考えることが出来ました。講師、チューター、参加者の方々に意見を貰えとても刺激になりました。

プログラムを終了したからと言って、きっと答えは簡単には出ないし、正解自体ないんだと思いますが、これからの自分の将来、地域の未来をつくっていくのにマイルストーンとなるであろう経験をさせて頂けたと思っています。地域や自分自身をめぐる状況は常に変化して行きますが、その変化をよりプラスの方向へ繋げるマインドを、みらいゼミではじっくりと磨けますよ！

南山城村役場 むらづくり推進課

荒木 聖子 様

「自分ががんばってやっていることは、きっと誰かのためになっているはず・・・」誰しもがそう思って日々仕事をしているのではないのでしょうか。

しかし、実はそうとは限らないということに気づかせてくれたのが、この「みらいゼミ」でした。

自分の視点でしか物事を見ていない時には見えていなかったことに対して、この「みらいゼミ」で他の参加者メンバーと語り合い、全く違った角度から見ることで、客観的な視点で見ることができるのです。

自ら参加しようという志の高いメンバーのゼミだからこそできる「自己改革」にぜひ挑戦を！

大津市役所 福祉子ども部幼児政策課

木村 英子 様

「自分は市民のニーズを考えながら仕事をしている。」公務員であれば、誰もがそう思っているのではないのでしょうか。私もそう思っていました。が、「みらいゼミ」を受講して、自分がニーズを探ることの本質を分かっていたなかったことに気付かされました。

「困っている人は誰か？」「困っていると決めつけていないか？」「困りごととは別にあるのではないか？」まずは、考えることが大切です。でも、それだけでは不十分です。当事者やその周辺の人などとの対話を通じてでなければ気づけないことがたくさんあります。

本ゼミは、参加メンバーとの語り合いや実践によって、そのことを体感させてくれます。受講された方には、必ず新たな気づきがあるはずですよ。

京都市役所 総合政策室

山下比佐暢 様